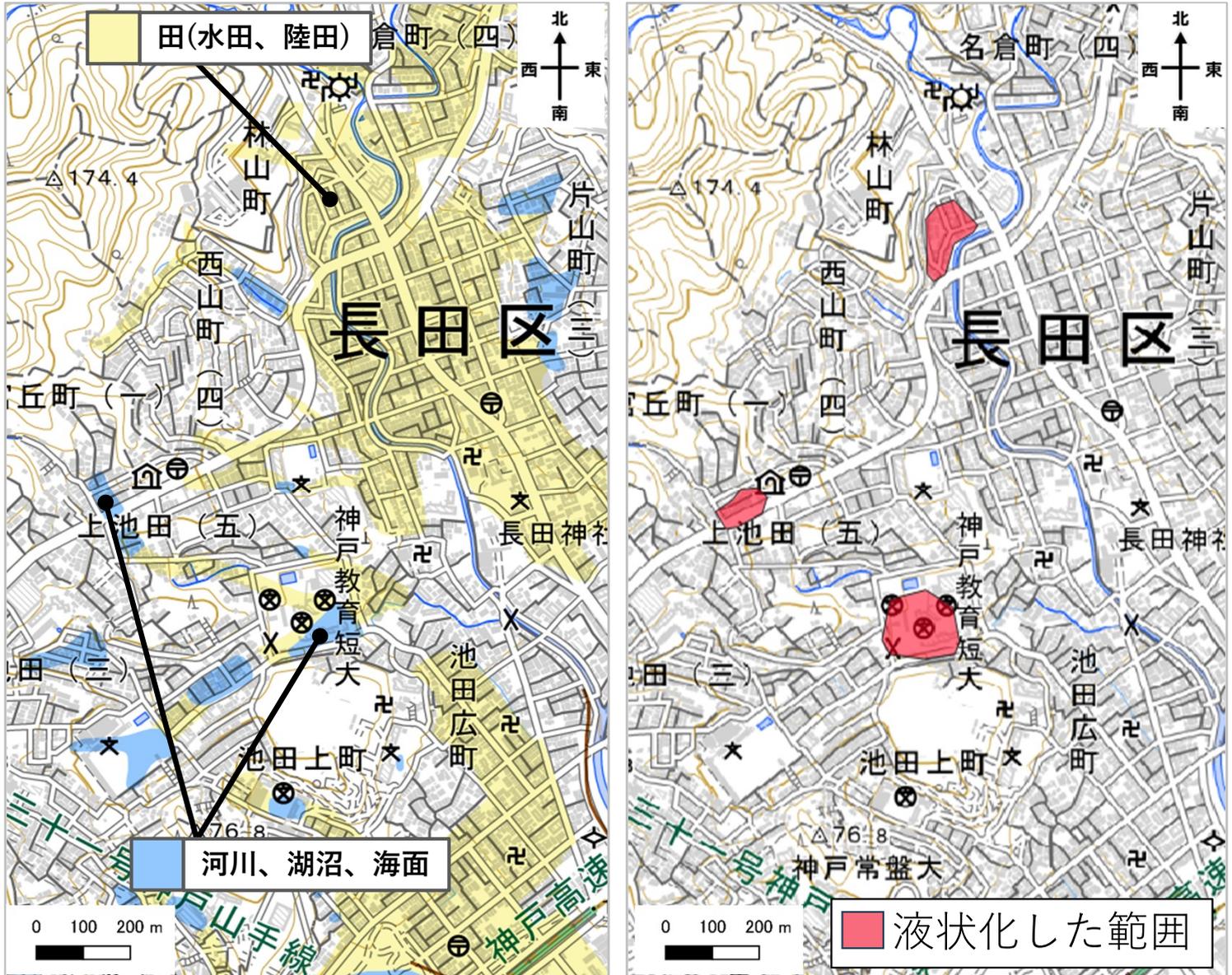


明治期の低湿地データの表示例 1 (兵庫県神戸市長田区)



左図：明治期の低湿地データ、 右図：平成7年（1995年）兵庫県南部地震の液状化範囲※

<読図のポイント>

- 左図の範囲の神戸市長田区では、現在はほとんど宅地化されていますが、明治43年頃には田や溜め池が分布していました。
- 平成7年（1995年）兵庫県南部地震で、液状化した範囲（右図）と比較すると、かつて水域や田だったところを中心に液状化が発生したことが分かります。

※液状化範囲は「日本の液状化履歴マップ 745-2008」（東京大学出版会 若松加寿江）から引用しています。

明治期の低湿地データの表示例 2 (香川県坂出市)



(参考) 液状化被害で塩田が浸水した様子 (出典：坂出市危機管理課)

<読図のポイント>

- 香川県の瀬戸内海沿岸部は、江戸から明治にかけて塩の生産が盛んでした。表示例 2 の範囲を見ると、沿岸部において明治期（明治35年頃）に塩の生産場所「塩田」が広がっていたことが分かります。
- 昭和21年(1946年)に発生した昭和南海地震では、こうした塩田周辺で液状化により被害が生じた記録が残っています（参考写真。撮影場所は表示例 2 のaの範囲内と推測）。